

磐梯吾妻スカイライン

山岳、湖、湿地、火口壁は、磐梯朝日国立公園の吾妻連峰を蛇行する長さ 29 キロの磐梯吾妻スカイライン（観光道路）から見える印象的な景色の一部です。この道は、福島県北部の人里離れた場所にある高湯温泉と土湯峠という 2 つのエリアを繋いでいます。スカイライン沿いの各ビューポイントでは、吾妻八景に代表されるこの辺りの多様な地形のパノラマを目にすることができます。

4月上旬から11月中旬まで開通している磐梯吾妻スカイラインへは、福島市から車で1時間です。

吾妻八景

磐梯吾妻スカイライン沿いの主な景観上の特徴を捉えているのが吾妻八景です。各ビューポイントの名前は、著名な小説家・詩人の井上靖（1907～1991 年）が名付けたものです。

白樺の峰

白樺の峰は、高湯温泉から磐梯吾妻スカイラインを出発した場合に最初に通る吾妻八景です。今日では、ダケカンバやゴヨウマツがこの辺りでは一般的です。

つばくろ谷

つばくろ谷という名前は、溪谷の岩壁に巣を作るつばくろがその由来です。標高 1,200 メートルの展望台からは、つばくろ谷のパノラマに加え、そこを渡る不動沢橋、そして遠くには福島盆地の市街地域を一望することができます。秋には、溪谷のさまざまな植物が豊かな色合いの景色を生み出します。

天狗の庭

作家の井上靖は、標高 1,350 メートルのこのビューポイント直下にある岩がごろごろした土地のことを、天狗の遊び場であると想像しました。景観は、福島市の街と遠くに見える阿武隈山地まで広がります。

浄土平

かつて山の苦行者は、この吾妻連峰へ精神修行の場を求めてやってきました。青々とした植物や野花で溢れたこの美しい亜高山台地（浄土平）へと、複数の古い巡礼ルートが続いています。仏教で無上の喜びの楽園「浄土」のような場所だと考えられていました。

1,600m にある眺望ポイントは、吾妻小富士の麓に位置しており、磐梯吾妻スカイラインの中間点となっています。ここからは、晴天の日には一切経山、浄土平の湿原、そして東吾妻山を見ることができます。ビューポイントから道の反対側には浄土平ビジターセンターがあり、トレッキングコースや浄土

平の植物、動物、野鳥に関する情報が提供されています。浄土平の湿原を突き抜ける木造の遊歩道など、ビジターセンターからは複数の散歩道やトレッキングコースがあります。

双竜の辻

ビューポイントから見ると、左側の安達太良山と右側の磐梯山が、首をもたげて向かい合う2匹の竜（双竜）のように見えます。猪苗代湖はその間に、遠くには会津盆地が見えるはずです。双竜の辻は、浄土平から約5キロの場所にある標高1,546メートルの道路の急カーブに位置しています。

湖見峠

1959年に磐梯吾妻スカイラインが建設された当時は、「湖が見える峠」を意味する湖見峠から複数の湖を見渡すことができました。現在は植物で湖が見えなくなっていますが、磐梯山は今でも望むことができます。

天風境

天風境（1,280 m）からは、深い森に覆われた高山の山腹へと続く広い溪谷のパノラマを目にすることができます。晴天の日には、山腹にある幕滝の小さな白滝を垣間見ることができます。多くの人がここで車を止め、秋の紅葉を楽しみます。天風とは、文字通り「天の風」という意味です。

国見台

国見台（1,250m）からは、磐梯山を見渡せ、会津盆地の端を見ることができます。「国」とは故郷を指し、昔、商人や巡礼者が旅立ちや帰りに山々を超える道中、悲しい別れや、帰郷を喜んで景色を見ていたことに由来します。作家の井上靖は、国見台から見える夕日の景色を、「まるで壮麗な幻想交響詩のフィナーレを奏でるよう」と表しました。